

令和2年 8月「月報」

1 はじめに

恐れていた新型コロナウイルス感染拡大の第2波が襲来したといえるでしょう。8月1日（土）の東京都の新規感染者数が過去最大の472人となり、全国で初の1、500人以上の感染者が発生し、緊急事態再宣言も必要との巷の声もあります。

新型コロナウイルスが世界各地で蔓延する一方、日本では記録的な長梅雨となり、梅雨前線の線状降水帯による集中豪雨で河川が氾濫、九州南部をはじめ各地で甚大な被害をもたらしました。

このような中、自衛隊は新型コロナウイルス対策を講じながら、毎日の警戒監視活動、海外での情報収集活動及び海賊対処行動、そして大規模災害への対応等に獅子奮迅の活躍をしています。

熊本県での災害派遣に参加した隊員が新型コロナウイルスに感染し、自衛隊ではこれまでに21名が任務遂行中に感染したとの報道がありました。自衛隊は、任務遂行にあたり、集団感染予防策を隊員に徹底し国民を守る行動に支障が出ないようにしていますが、それでも感染者を0にはできません。

新型コロナウイルス対応や大規模災害で泥まみれになって活動する自衛隊（隊員）を慰問・激励する各県の活動を3項で紹介します。

2 防衛省・自衛隊の活動

(1) 令和2年7月豪雨に係る災害派遣

7月3日（金）から九州地区を始め、全国で集中豪雨（令和2年7月豪雨）により各地の主要河川が氾濫し、死者70人を超える大きな豪雨災害が発生しました。

政府は、7日（火）、最大2万人の態勢で自衛隊が災害派遣活動を実施すると発表し、これを受け自衛隊は、西部方面隊を基幹として熊本県南部（球磨川流域）、福岡県大牟田市、大分県日田市等において人命救助、道路啓開、土砂・流木除去等にあたりました。



渡河ボートで人命救助



孤立地域（道路寸断）への物資輸送

(2) 令和2年版「防衛白書」（50年目の刊行）の公表

7月14日（火）、令和2年版の防衛白書が閣議に報告され、公表されました。

中国などを例に「新型コロナウイルス感染症拡大は自らに有利な国際秩序・地域秩序の形成や影響力の拡大を目指した国家間の戦略競争をより顕在化させ得ることから、安全保障上の課題として重大な関心をもって注視していくことが必要」としています。

以下、2年版防衛白書の主要な特色を記述します。

ア 表紙は、「令和」の元号が、万葉集の梅の花の歌から引用されたことを踏まえ、梅色となっています。



防衛白書表紙 (HP)

イ 記述対象期間

昨年までの防衛白書では、おおむね6月前後までの一年間を記述対象期間としていましたが、令和2年版防衛白書では本年3月末までの令和元年度の一年間を対象期間とし、本年6月までの内容には、新型コロナウイルス関連などの重要な事象を記載したとしています。

ウ 諸外国の軍事動向

(ア) 中国の軍事動向は、国防政策や軍事に関する不透明とあいまって、わが国を含む地域と国際社会の安全保障上の強い懸念」としています。

この際、「尖閣諸島周辺において力を背景とした一方的な現状変更の試みを執拗に継続している」と、初めて「執拗に」との表現を用いています。

(イ) 北朝鮮については、「わが国の安全に対する重大かつ差し迫った脅威」とし、「近年ミサイル関連技術の高度化を図っている」としています。

(ウ) ロシアについては「核戦力を含む装備の近代化を推進しているほか、軍事活動を活発化させる傾向にあり、その動向を注視していくことが必要」としています。

エ 新型コロナウイルス感染症の記述

新型コロナウイルス感染症を「わが国を取り巻く安全保障環境」の項目の中で記載しています。

具体的には「宇宙・サイバー・電磁波といった新たな領域をめぐる動向・国際社会の課題」の項目の一つとして「新型コロナウイルス感染症」を取り上げ、「新型コロナウイルス感染症がもたらす課題は、単に衛生上の問題にとどまらず、各国の社会経済全般におよび、世界経済の停滞長期化が懸念される」としています。

また「訓練や共同演習の中止・延期を余儀なくされるなど、各国の軍事活動に影響・制約を与え、感染拡大が長期に及んだ場合は各国の軍事態勢にも様々な影響を及ぼす可能性がある」としています。

カ 巻頭と巻末の特集

(ア) 巻頭では「防衛この1年」として1年を振り返り、「新型コロナウイルス感染症との闘い」「台風第19号などの災害派遣」「北朝鮮による弾道ミサイル発射」「中東地域での情報収集活動」「即位の礼」「日米同盟60周年」などを挙げています。

また今年が1970年（中曽根防衛長官）に初めて刊行した防衛白書から50年の節目に当たるとして「防衛白書50年の歩み」をこれまでの白書の表紙で振り返っています。

（イ）巻末では、「世界で活躍する自衛官」「日本で活躍する自衛官」として、現場で活躍する自衛官を数多く紹介しています。

（防衛白書の詳細は、防衛省HPをご参照下さい。）

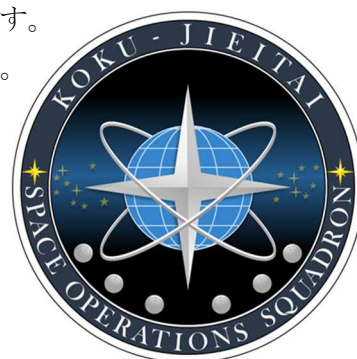
（3）宇宙作戦隊のシンボル・マークを公表

7月31日（金）、航空自衛隊は、令和2年5月に新編された宇宙作戦隊のシンボル・マークを公表しました。

宇宙作戦隊は、宇宙状況の監視など宇宙空間の安定的利用を確保するため、このシンボル・マークを誇りとし、職務に邁進するとしています。

シンボル・マークは、次のイメージで作成されました。

- 正面の十字は、宇宙を象徴する「星」をイメージ
- 地球及び衛星軌道は、常続不断の監視をイメージ
- 6つの丸は、防衛省初となる宇宙監視専用レーダーを意味します。
- 合計20個の星は、2020年に部隊を新編したことを意味します。



宇宙作戦隊シンボル・マーク

3 家族会の活動

（1）令和2年7月豪雨に係る災害派遣部隊への慰問・激励

ア 第4師団は、筑後川等の河川氾濫に伴い7月7日（火）から福岡県大牟田市や大分県日田市において派遣活動を実施しており、7月17日（金）、福岡県家族会（與国洋会長）は、第4師団司令部（福岡駐屯地）を訪問し、沖邑第4師団長に本会からの「ボディシート296個」の慰問・激励品を贈呈しました。



沖邑師団長へ激励品（目録）を贈呈する
與国会長（右2）と崎山事務局長（右橋）

イ 第8師団は、球磨川氾濫に伴い7月4日（土）から熊本県人吉市・芦北町・多良木町等において災害派遣活動を実施しており、7月21日（火）、熊本県家族会（井上朋和会長）は、第8師団司令部（北熊本駐屯地）を訪問し、堀井師団長に本会から「迷彩今治タオル270枚」、熊本県及び熊本市家族会から「野菜ジュース1,000パック」の慰問・激励品を贈呈しました。

なお、当日は、井上会長が自宅床下浸水被災により行動がとれないため、光永熊本県事務局長及び濱端^{はまぼた}熊本市会長他5名が代行しました。



野添総務課長へ激励品を贈呈する
光永熊本県事務局長



熊本県・市家族会からの激励品を贈呈
する濱端熊本市会長

(2) 令和2年7月豪雨に係る災害派遣部隊へのウエットタオル等の贈呈(東京都家族会)

東京都家族会（岡本智博会長）は、線状降水帯により九州全土で発生した7月豪雨災害に係る人命救助等で災害派遣中の第4・8師団に7月7日～8日の間、支援物資（ウエットタオル等3,200本を宅急便で各司令部へ送付）を贈呈しました。

贈呈したウエットタオルは、FSX株式会社の藤波取締役会長のご厚意で自社製品の生地を東京都家族会へ無償提供いただき、同女性部（鍵山部長）会員が縫製し、災害派遣部隊支援用に備蓄していたもので、平成28年の「熊本地震」以降、「部隊・隊員支援活動」の一環としてウエットタオルを災害派遣部隊へ贈呈しています。

7月21日（火）、若菜東京都副会長及び杉田国立市家族会会長他1名が、同社を訪問し、藤波会長に「災害派遣部隊への支援物資の届け完了」を報告するとともに、永年にわたるご芳志に御礼の意を表し本会会長の感謝状を伝達しました。



- ①ウエットタオル
- ②同上（ハーフサイズ）
- ③ウエットティッシュ（香料入り）



藤波 FSX（株）会長への感謝状

(3) 中央病院勤務者への慰問・激励（新潟県家族会）

7月8(水)、新潟県家族会（早川澄男会長）は、新型コロナウイルス感染者の治

療・看護を献身的に行っている中央病院勤務者に対し、新潟県の銘菓（段ボール箱120個分）を贈呈しました。

新潟県出身の隊員が、中央病院に医療従事者等として多数勤務している事を承知していた早川会長は、「休憩時間に医療従事者達に新潟の銘菓を食べていただき、故郷を思い出し、厳しい勤務を乗り越える活力にして欲しい。」との親心を込めて今回の慰問・激励品に激励メッセージを添えて送ったものです。

後日、^{うわべ}上部中央病院長からの丁寧な礼状と中央病院の記念メダルが届けられました。



新潟を代表する5社の銘菓



段ボール箱で発送



上部病院長の礼状とともに届いたメダル

(4) UNMISS 司令部要員からの礼状

本会は、「自衛隊の活動支援」活動として海外に派遣されている隊員へ、定期的に慰問・激励品（日本の味を思い出す味噌汁やカップ麺等）を届けています。

7月上旬、南スーダンに派遣されている4名の司令部要員から礼状が届きましたので原文のまま紹介します。

自衛隊家族会 殿

令和2年6月末

UNMISS 司令部 兵站幕僚 山之内3佐

情報幕僚 高橋3佐

施設幕僚 佐藤3佐

航空運用幕僚 中村1尉

拝啓 盛夏の候、家族会事務局はじめ会員の皆様におかれましては、益々ご清祥のことと心からお慶び申し上げます。

さて、日本も新型コロナウイルスへの対応で大変な状況であるにも関わらず、先日は我々司令部要員4名のために、心温まる慰問品を送って頂き誠にありがとうございました。ここ南スーダンの地において「日本の味と日本語の文字」を感じることが出来るのはとても嬉しく、勤務の励みとなりました。我々4名はお陰様でそれぞれの部署において職務に邁進しております。

また、只今南スーダンでは雨季であり猛暑と豪雨の日々が続いておりますが、全員が

体調不良に見舞われることもなく健康で過ごしています。引き続き健康に留意するとともにわが国の代表として任務を完遂し無事に帰国できるよう引き続き職務に邁進して参りますので、変わらぬご支援ご協力を賜いますようお願い申し上げます。

末筆ながら、家族会の皆様の益々のご健勝とご多幸を祈念しております。

敬具

(6) 自衛隊家族会「問い合わせ窓口」の集計結果（月間報告）

ア 全般

7月の問い合わせ件数は6件でした。その中で、部隊と隊員と家族間の意思の疎通の悪さが原因となり、家族の心配が大きくなっている継続事案もありました。

一方、4月あるいは5月の隊員関連の相談のうち、身体が治癒して部隊に復帰したり、1任期退職隊員が再び一般曹候補生試験に合格したとの報告を、親あるいは本人から受けたことは、「問い合わせ窓口」設置の大きな成果と思います。さらに、小6の隊員家族から、思春期にありがちな相談をうけるなど、「問い合わせ」窓口の相談内容の幅の広さを再認識しました。

イ 集計結果（概要）

- 総件数：6件（「隊員や家族に関する問い合わせ」6件、「家族会に関する問い合わせ」1件）（※ダブりが1件ありました）
- 新再区分：新規4件、再2件
- 問い合わせ区分：「隊員や家族に関する問い合わせ」6件は、職場関係5件、その他1件、「家族会に関する問い合わせ」は、公的な問い合わせ1件でした。

ウ 今後の方向

7月の特色は、「問い合わせ」内容について関係部隊などと連携して対応し結果、しっかり再生（悩み等を解決し自立・律できる状態）できることを確認したことです。これらの結果は、「相談員」冥利につきますが、やはりいかなる悩みも解決に向けて「諦めない」ことが大事と考えます。

新型コロナウイルスも再び全国的な感染拡大の方向にあり、自衛隊員のみならず会員の皆様の悩みやストレスも増大することが予想されます。何かあれば遠慮なく本会の「問い合わせ窓口」をご活用下さい。お待ちしております。